

高松市の中学生の医療費無料化を求めるアピール

「家庭の収入の違いで子どもの健康と命に差をつけないでほしい」、「子どもの医療費をせめて無料にしてほしい」、切実な声が多く寄せられます。

県内では高松市以外のすべての自治体で中学生卒業までの医療費自己負担がない・無料化が実施されています。医療制度は最後のセーフティーネットであることから国の施策を待つことなく自治体として優先順位を高めて実施されています。

ところが高松市では小学生まで無料ですが中学になると通院医療費は3割負担となります。日本外来小児科学会「子どもの貧困問題検討委員会」代表世話人の和田浩医師も参加しておこなった調査では、貧困層の子どもは貧困でない層にくらべ、繰返しの入院が1.7倍も多く、ぜんそく発作での入院は2倍に上ったと報告されています。さらに、貧困層の受診抑制は非貧困層の4.3倍になっていることがわかりました。

また、五十嵐 隆（日本小児科学会前会長）医師は、これまでの研究から子供の健康格差の是正には医療費無料化の制度は有効と明言しています。

一般に中学生以上になると、アレルギーや発達障害など根気強く通院することが必要な慢性疾患の比率が高くなります。そういう子どもが治療を中断しなくてすむ制度の拡充が必要です。現在の制度では治療の継続を困難にし医療機関への受診の抑制につながり病気の早期発見早期治療を阻害しています。最近の世論調査（毎日新聞）でも、子どもにとって「人並みの生活」とは「具合が悪ければ、医者に行ける」が最多でした。

無料化のために必要なお金は2億8千万円です。ここ数年の決算は毎年黒字になっており、2016年度は60億円の黒字でした。「子育てしやすい高松市」をかかげる高松市にふさわしい施策の充実は待ったなしです。

高松市がすみやかに、中学生の通院医療費無料化にふみだすことを強く求めます。

「高松市の中学生の医療費無料化を求めるアピールに賛同いただければ
お名前と一言メッセージを

お名前(差障りがなければ肩書きも)/連絡先

一言メッセージ